

# 亀中だより

海南市立亀川中学校  
海南市且来990

No. 2

TEL (073) 482-3529

HP <http://www.kame-chu.kainan.ed.jp/>

発行 令和4年5月24日

関わる全ての人が幸せになる

「いい学校」を目指して

教育目標

生きる力を育み、

未来を拓くために、

主体的に考え行動できる生徒を育成する。



通勤時、みかん畑の前を通ると、白い小さな花が咲いています。少しスピードを落として窓を開けてみると、ほのかに甘い香りが漂ってきます。まさに、風薫る5月。通勤途中、このみかんの花の香りが私にとっては癒やしであると同時に、今日も1日頑張ろうと思える瞬間でもあります。皆さんにとっての癒やしは、どのような場面でしょうか？慌ただしく過ぎる毎日の中において、季節の移り変わりを発見したり、小鳥のさえずりなどに耳を傾けたりと気持ちにゆとりをもちたいものです。

## ○各学年の取組み

### ☆3年生☆ ～道徳～

3年A組では「言葉おしめ」3年B組では「たんぼぼ作業所」という教材に取り組みました。「言葉おしめ」では、見知らぬ人とのさりげない触れ合いの中で交わされる挨拶の言葉によって、人の心やその場の雰囲気が変わってくる3つのエピソードから、時と場に応じた適切な言葉遣いや行動について考えました。また「たんぼぼ作業所」では、働くということについて、主人公の立場に立って考え、自己を問い直すことによって、働くことの難しさや、働くことの意義について考えました。

### ☆2年生☆ ～総合的な学習の時間～

人権学習の一環として、パラスポーツ（障がい者スポーツ）について学習をしています。パラスポーツの組織や歴史について学んだ後、各班で一人ひとりが競技について調べ、まとめたことを班内で発表しました。自分たちで出来るパラスポーツを考え、「シッティングバレー」「ゴールボール」「ボッチャ」を体験します。また、2学期には「車イスバスケット」を体験する予定です。

### ☆1年生☆ ～総合的な学習の時間・技術科～

総合的な学習の時間と技術科の授業で農業体験がスタートしました。本校グラウンドの西側にある畑の草引き等を行いました。その後、土を耕し、畝をつくり、ピーマン・ナス・オクラなどを植えました。6月には、サツマイモを植える予定です。この活動は「他者と協力しながら主体的に取り組み、作物を育てる喜びを味わわせること」を目的に毎年実施しています。みんな一生懸命作業をしてくれました。収穫が楽しみです。

## ○部活動 春季大会頑張りました

ゴールデンウィーク中、令和4年度最初の各種大会が開催されました。雨の影響で延期となった競技もありましたが、無事大会を終えることができました。一生懸命にプレーする姿は、見ている人に勇気と感動を与えてくれます。今回の大会で、練習の成果が発揮できた人もそうでなかった人も日々の練習を大切にして、次の大会を目指して欲しいと思います。大会結果（入賞）は次の通りです。

### ☆ソフトテニス部

○県中学校選手権大会 海草地方大会

【女子個人の部】 優勝： ペア  
2位： ペア

○市民スポーツ大会

【女子団体の部】 優勝

### ☆バスケットボール部

○県中学校選手権大会

中紀ブロック大会 3位

タブレットPCで自分の口腔内を撮影して提出。長生先生がチェックし一人一人にアドバイスを送りました。

科学技術部では1年生たちが先輩に教わりながら早速活動に加わっていました。

**左側走行の徹底、二人乗り・並進の禁止**等、自転車安全利用五則を守って絶対事故のないようにしましょう！

先生による♪「みんなの歯と歯肉をキレイにするぞ作戦！！」

歯科検診に向けてICTも活用したナイスな取組！さあ、結果はどうなるか？

～入部式の様子～  
1年生を部活動に迎えて

交通安全教室の実施

## キッズサポート教室の実施



フィルタリングは義務です！

軽い気持ち、他の人もやっている、ちょっとくらい大丈夫、遊びや冗談で…これらすべてがトラブルの始まりです。

## 行事予定

2日(木) 3年到達度テスト①  
検尿2次  
学校運営協議会 19:00～

3日(金) 検尿2次予備日  
スクールカウンセラー来校  
育友会専門部会 (19:30～)

7日(火) 眼科検診

10日(金) スクールカウンセラー来校

11日(土) 市民スポーツ大会(野球)～12日(日)

12日(日) ソフトテニス県選手権大会

15日(水) スポーツテスト(6限)

17日(金) スクールカウンセラー来校

19日(日) 少年メッセージ 2022

22日(水) 期末テスト発表

24日(金) スクールカウンセラー来校

29日(水) 期末テスト1日目

30日(木) 期末テスト2日目 避難訓練

7月

1日(金) 期末テスト3日目

### 絶対に注意して欲しい事

- 他人に見られて困るものは送信しない。
- ネットで知り合った相手の情報は信用しない。
- 写真や学校など、個人情報を掲示しない。
- ひとりで悩まず、相談する。

5月23日(月)に和歌山県警察本部生活安全部少年課から講師先生2名をお招きし、1年生を対象にキッズサポート教室を実施しました。「インターネットの危険性」をテーマとし、児童ポルノ、児童買春…中学生がどのようにしてネット上の犯罪に巻き込まれてしまうのかについて詳しく教えていただきました。こういった被害は過去に比べて4倍ほど増加しており、被害が報告されていないものも多くあると思われます。自分には関係ないと思っていた人もドキッとしたのではないのでしょうか。SNS等を利用している人は絶えず心にとめておいてほしいお話ばかりでした。家族と話し合い、ルールをつくって、心のブレーキをしっかりとちましましょう。自分自身、そして、自分のまわりの自分を大切に思ってくれている人たちを傷つけないためにも…。

助産師さんや保健師さんにお越しいただき、思春期の心や体の変化、赤ちゃんがどのように生まれてくるのかについてお話をお聞きました。お話のあとは赤ちゃん人形抱っこや妊婦体験等を行いました。

3年生思春期体験学習

# 親子読書感想文

## 「思い出のオムライス」

GWに親子読書を実施しました。誰もが経験したことのある「ちょっとした嘘」。そのような経験を通して、「誠実な心や責任ある態度」とは何かを考える題材です。親子でじっくり話し合って提出していただいた感想文の一部を紹介します。

### 〈あらすじ〉

40年前、主人公の「私」は体調を崩して学校を欠席しました。毎日働きに出ていた母親は「私」のために昼食用にオムライスを出前で頼んでくれました。次の日もです。大好きなオムライスをもっと食べ続けたい「私」は快復していないふりをしてもう1日休んでしまいます。何も言わず、同じようにオムライスを注文してくれた母親でしたが、その日の夜に母親は「私」が夜に食べようと大事に半分残してあったオムライスを般若のような怖い顔で皿に投げつけました。そして「・・・神様が許しても母ちゃんは許さん」と「私」をどなりつけました。その時は、なぜ怒られたのかも分からない「私」でしたが、40年後、徐々にその時の言葉の意味が分かってきます。

私もうそをついたことがあります。そして、うそをついたことがない人は少ないと思いました。私はこの作品を読んで「あの、世の中で一番惨めで悲しいことは、お金のびんぼうではなく、心のびんぼうや」という言葉と「平気でうそをつき平然と人をあざむく人間には絶対なるな」というところが大切だと思いました。理由は、金のびんぼうは努力すればもどることだけど、心のびんぼうはもうもどることもないし、言った人はおぼえていなくても言われた人はおぼえているから、そういうことはしてはいけないとお母さんと一緒に話をしました。もう一つの文はうそをついてほかの人をだますことは絶対にだめだということはこの作品を読んで実感しました。これからもだましたりうそをつくことはしないようにしていきたいと思います。

【1年生徒】

うそをついたことがあるかお互いに確認し、2人共ありました。きっと、うそをついたことがない人は少ないと思います。大きなうそ、小さなうそ、どちらも同じうそです。作品にも書いてたように、平気でうそをつく人間にはなりたいくないことを伝えました。あと、お金の貧乏ではなく、心の貧乏の部分とても共感しました。今の時代、マスクをしていて相手の表情もわからない、言葉で直接伝えるのではなく、ラインなどネットに頼る。便利な時代にはなったけれど、なんとなく淋しいような。いつでも自分のことばかりじゃなく、相手のことも考え、できれば自分の気持ちはしっかり口に出して伝え、友だちや先生などをたくさん話をして心豊かな人生を歩んでいってほしいなと思います。

【1年保護者】

元気やのにおいしいものを食べるためにうそをついて休む気持ちはわかるけど、やっぱりうそをつくのグメだなと思いました。やっぱり親はうそなどを見ぬいてしっかり子供のことを見ていてすごいなと思いました。母が3日間昼食を食べずに働いてオムライスを買っていたことがとてもおどろきました。親はそれだけ愛情をもって育ててくれていることが十分にわかりました。親の気持ちは自分たちが親になったときに全部の気持ちがわかるのかなと思いました。親は一生懸命自分たちをそだててくれていることがあらためて強く実感しました。

【1年生徒】

子供の頃にみんな一度は親の気持ちを知らずに自分本位のうそをついたことがあるのではないのでしょうか？その時は深く考えずについたうそや行動で、その後罪悪感に襲われたり深く反省したりします。親になったからこそ気づける親心がたくさんあります。自分も母に言われた言葉が今も心に残っています。その言葉を胸に我が子にもそうなってほしくないという気持ちで話をするように心掛けています。

【1年保護者】

この話はうそをつくと相手も自分も悲しい気持ちになり、苦い思い出ができるということにあらためて気づかされる話で、うそをついたことを決して忘れることなく次はどうしたらいいのか常に考え前向きに生きることが大切だとわかりました。どうしてもオムライスをもう1度食べたいと自分の欲望のために思わずうそをついてしまった主人公「私」に対してお母さんが般若のような怖い顔をして「嘘つきは神様が許しても母ちゃんは許さん。」と怒ったシーンが最も印象に残っています。もしも、私がお母さんでも、平気でうそをつき平然と人を欺くような心が貧乏な娘だとわかったら、そんな人には育ててほしくないため、すごく怒ると思います。私はこの話を読んで自分のためにうそはいけないことだと叱ってくれるお母さんの存在はとても大切なんだと考えさせられました。そしてこれからは私も相手を傷つけるうそは絶対につかないでおこうと強く思いました。また、他人を傷つけないためにやむを得ず嘘をついてしまうときには心の片隅に「ごめんなさい」と相手に対して謝り、ためらう気持ちをもてる立派な人間になりたいです。

【2年生徒】

人はおそらく誰でも生きていうちに、嘘の大きさに関わらず1つや2つ嘘をついたことがあると思います。が、嘘には相手を思いやるがために、ついても良い「優しい嘘」と自己中心的に考えてついでしまうついでいけない「誰かを傷つける嘘」があるということをお子たちと一緒に考えました。これから成長していく長い時間の中でどうしても嘘をつかなくてはならなくなったとき、自分を含む誰も傷つけることはないか、自分の心にしっかりと向き合っている生きていってほしい、また、親の私もそうありたいとあらためて強く思いました。【2年保護者】

私がもし、この物語の「私」だったら「私」と同じように嘘をついてオムライスを頼むと思いました。好きなことは何回もやりたいと思うからです。友だちが毎日のように食べているのなら私も食べる権利はあります。幸福感に浸れるならなおさらです。でも、「母」に怒られても認めず「母」のせいにする「私」にはなりたくないし、なってもあんな行動はしたくないです。この物語にもあるように、時と場合に応じて他人を傷つけないためにやむを得ず嘘をついてしまうことがあります。でも、今回の嘘はやむを得ずついた嘘ではなく自己満足のためについた自分勝手な嘘です。「私」が嘘をついて楽しく食べているときに「母」は自分の昼食をなくして必死に働いていました。私は「母」がとてもかわいそうだと思います。怒った後、怖い目をした「母」の気持ちがとても気になります。「母」が3日間昼食なしで働いたと知ったとき「私」がどう思ったかはわからないけど、ちゃんと反省できていたらいいいなと思います。今回の物語であらためて嘘の重さについてわかりました。平気で嘘をつき、平然と人をだます人間にはなりたくないなと思いました。【2年生徒】

どちらかと言うと、この母より「私」の方に共感できたと感じました。小学校3年生のついた小さな嘘とその甘えた嘘に寄り添える余裕やゆとりがなかった母。(金銭面でも精神面でも) そんな風に読めました。親として子供に嘘をつかせない。(小さな嘘を上手につける) 関係性や環境をつくりたいと感じました。【2年保護者】

なかなか食べるのできないオムライスがもっと食べたいという気持ちはとても共感した。でも、そのオムライスが食べたいからという理由でわざと熱を出すのは良くないと思った。「私」の母が熱のときにオムライスを食べさせてくれたのは、きっと熱が出てしんどい「私」を元気づけるためだと思う。その優しさを悪用して「私」の母を悲しませるのは良くない。「私」の母は「私」がオムライスを食べるために嘘をついたことと自分の子供がこんなふうになってしまったという怒りと悲しみであふれているはずだ。私はこのような「私」の母の優しさを無駄にしないように悲しませないように、今、私にできること、勉強や部活、習い事などに一生懸命励んで家族に恩返しをしたいと強く思った。全ての嘘がいけないというわけではないが、人を傷つける嘘は絶対につかないと決めた。【3年生徒】

平気で嘘をつき平然と人を欺く人間には絶対にならないでほしいという思いは、この「母」の中にあっただろうし、人としてとても大切な部分だと思った。そのような心の貧乏が一番惨めで悲しいことだと自分の子供たちにも伝えていきたい。その思いは伝わって、この「私」のようにいつしか心豊かに成長してくれると信じている。

【3年保護者】

この話を読んで「世の中で一番惨めで悲しいことはお金の貧乏ではなく、心の貧乏」という言葉が心に残っています。主人公はオムライスを食べたいがために嘘をついて学校を休んでいます。この時の主人公はオムライスを食べるととてもうれしそうですが、母親はその子の嘘のために昼食を食べずに働いています。きつとはじめの2日間は子どものことを思って仕事に励んでいたかもしれませんが、嘘をつかれて昼食を食べることができないことは、とても悲しかったと思います。きつと主人公はそんなことを知らないから母親に対して自分が悪いと思っていないと思います。嘘をつかれたことより自分の子どもが少しも相手に対して悪いことをしたと思っていないことが悲しかったんだと思いました。私はこれから最後にある「やむを得ず嘘をついてしまうときでも、その心の片隅にほんの少しでも相手に対して『ごめんなさい』と謝り、ためらう気持ちをもてる人間に」ということを大切にしていきたいと思います。

【3年生徒】

私も昔に母親に言われた言葉が記憶に残っていて、ことあるごとにその言葉が脳裏によぎります。中学生の頃、テスト勉強をやらずに神様に「いい点数でありますように」とお願いしたら「神頼みする前にやるべきことをやれ」と言われたことがあり、今でもその言葉が私の行動を決定することがあります。人が発する言葉には力があると気づいてからは自分が口にする言葉を慎重に選ぶようになりました。【3年保護者】